

雪まくり（スノー・ローラー）の記録

著者	石坂 雅昭
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	4
ページ	93
発行年	1982-03-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=465

雪まくり（スノー・ローラー）の記録

石坂 雅昭

富山市科学文化センター

1981年3月6日早朝、富山市南部の青柳から大沢野町東大久保の水田地帯に雪まくりが発生しているのが見られた。写真を撮った時点では、発生後の気温の上昇のためにつぶれた状態であった（図1）。積雪の状態は、図2及び図3に示すとおり、厚い氷板の上に3cm程度の新雪がつもった状態であった。雪まくりは、この新雪を巻きながら氷板上を転がってできたものである。発生時前後の気象要素を富山地方気象台の記録でみると図4のと

おりである。なお、発生地点と気象台は、直線距離で約10km離れており、発生地点は、気象台の南で内陸に位置し、海拔高度で約55m高い（気象台の高度8.5m）。したがって少なくとも気温は、気象台より低目であったことが予想される。転跡からみると、営力は南風と判断される。発生の時点は、風の強さからみて、午前2時30分から3時と午前5時前後が考えられ、風向からは後者が有力であるが、発生地点と気象台では風向が異なる可能性もあり断定しがたい。

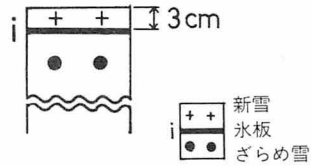


図2 表面の積雪の状態

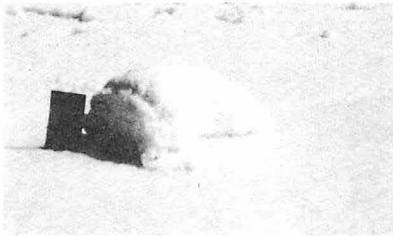


図 1

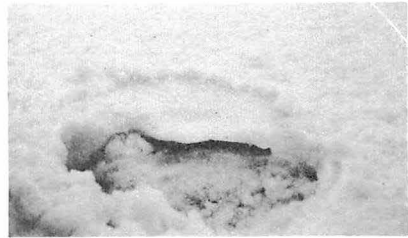


図 3

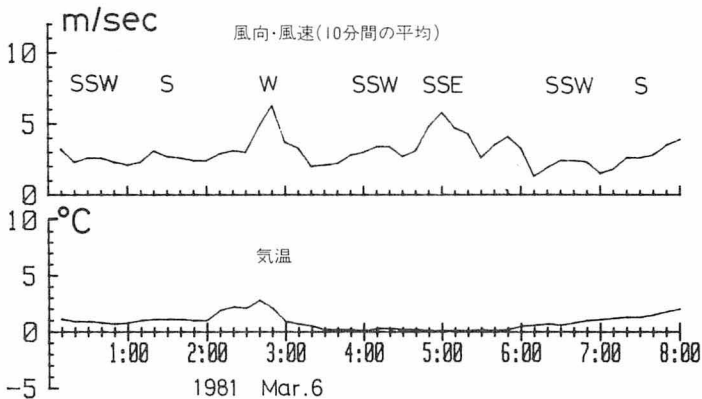


図4 発生時の気象（富山地方気象台）